

ドイツ地域研究のための基本文献

〈文献案内〉

- 木村靖二・千葉敏之・西山暁義編著『[ドイツ史研究入門](#)』山川出版社、2014年
古ゲルマン時代から現代までのドイツ史について、ドイツ語・英語・邦語文献に基づき、研究の動向と論点を概観する。第Ⅰ部は時代別、第Ⅱ部はテーマ別の研究案内で、第Ⅲ部には文献の検索法と詳細な文献リストが含まれる(2014年3月刊行予定)。
- 踊共二・岩井隆夫編『[スイス史研究の新地平—都市・農村・国家](#)』、昭和堂、2011年
第1部第1章がスイス史の概観、第2章がスイス史の研究動向紹介となっている。第2部・3部はスイス史各分野の研究論文が収録されている。巻末の文献リストが充実している。
- 大津留厚・河野淳・岩崎周一・水野博子編『[ハプスブルク史研究入門—歴史のラビリンスへの招待](#)』、昭和堂、2013年
近世前期、近世後期、近代、現代の4部からなる研究入門。ハプスブルク史研究の動向や研究文献、史料を知るうえで最新・最良の手引き。
- 姫岡とし子・川越修編『[ドイツ近現代ジェンダー史入門](#)』、青木書店、2009年
文化、教育、労働、家族、セクシュアリティ、女性運動、ナショナリズム、男性性など、18世紀の啓蒙時代から現代までを対象とした、ドイツ・ジェンダー史の研究入門。
- 日本ドイツ学会編『[ドイツ研究](#)』、成文堂/信山社、1985年～
★図書館所蔵は30号(2000年)から
ドイツに関する学際的な地域研究専門誌。現代ドイツに関する研究論文を多数掲載する。
(雑誌の目次は日本ドイツ学会HPに掲載 <http://www.jgd.sakura.ne.jp/>)
- ### 〈入門書・概説書〉
- 坂井榮八郎『[ドイツ史10講](#)』(岩波新書)、岩波書店、2003年
ドイツの歴史をコンパクトに叙述した講義スタイルの通史。近世・近代・現代のパートはとくに読みごたえがある。
- 石田勇治編『[図説ドイツの歴史](#)』、河出書房新社、2007年
画像史料・図版を豊富に用いたコンパクトな通史であるが、叙述は本格的で読みごたえ十分。近現代史が中心。
- 増谷英樹・古田善文編『[図説オーストリアの歴史](#)』、河出書房新社、2011年
上掲書の姉妹編。やはり近現代史が中心。
- ピーター・H・ウィルスン(山本文彦訳)『[神聖ローマ帝国1495-1806](#)』、岩波書店、2005年
神聖ローマ帝国とは何か、という問いに対し、ヨーロッパ史の枠組みの中で答えようとする意欲作の日本語訳。国制・制度の面からの考察。
- 浜本隆志編『[現代ドイツを知るための62章](#)』(第2版)、明石書店、2013年
文化、生活から国民性、さらに移民、ジェンダー、環境問題まで、現代ドイツに関する情報を整理した入門書。
- 加藤雅彦・木村直司ほか編『[事典 現代のドイツ](#)』、大修館書店、1998年

政治、経済、歴史、社会、文化から日常生活にまでおよぶ、現代のドイツに関する百科事典。15年前の刊行のためデータは最新のものではないが、現代ドイツに関する基本的な情報・論点を網羅している。

〈通史〉

- 木村靖二編『[ドイツ史](#)』（新版世界各国史 13）、山川出版社、2001年
ドイツ通史の定番。ドイツ史を学ぶ際の基本図書。
- 森田安一編『[スイス・ベネルクス史](#)』（新版世界各国史 14）、山川出版社、1998年
上掲ドイツ史の姉妹編。スイス史を学ぶ際の基本図書。
- 南塚信吾編『[ドナウ・ヨーロッパ史](#)』（新版世界各国史 19）、山川出版社、1999年
上掲ドイツ史の姉妹編。オーストリア史を学ぶ際の基本図書。
- 成瀬治・山田欣吾・木村靖二編『[世界歴史体系ドイツ史1-3](#)』、山川出版社、1996-1997年
ドイツ通史の決定版。ある時代を掘り下げて学んだり、卒論など学術論文を作成する際には、本書にあたるとよい。

〈専論・研究書〉

- 石田勇治『[過去の克服 ヒトラー後のドイツ](#)』、白水社、2002年
戦後のドイツがナチズムの過去とどのように取り組んできたかを、敗戦直後から現在まで時系列にそって叙述したもの。
- 古内博行『[現代ドイツ経済の歴史](#)』、東京大学出版会、2007年
第二次大戦後から東西ドイツ統一を経て現在までを対象とする戦後ドイツ経済の通史。
- H・ミッタイス、H・リーベリッヒ（世良晃志郎訳）『[ドイツ法制史概説](#)』（改訂版）創文社、1971年
古ゲルマン時代から中世、近世をへて近代にいたるドイツの法制度の体系的な概説。各時代の法制度・国制・社会制度・文化についての専門用語を調べる事典として活用できる。
- フリッツ・ハルトウク（成瀬治、坂井栄八郎訳）『[ドイツ国制史](#)』、岩波書店、1980年
15世紀から現代までのドイツの国制についての詳細な概説書。訳語・訳注が優れており、事典としても活用することができる。
- 西川正雄編『[ドイツ史研究入門](#)』東京大学出版会、1984年
高度に専門的・学術的なドイツ史研究入門。刊行から30年近くたち、文献情報などは更新する必要があるものの、研究者を志す大学院生には必携の書。近現代史が中心。

(2013年12月 千葉敏之)